

タイトル： ラポール(心の架け橋)で創る“みんなが夢中になれる瀬田川”

■中間活動報告書

氏名： 眞田 拳奨

作成日： 2017年 8 月 25 日

	年間活動計画	活動結果
<p>背景と昨年度の課題</p>	<p>(背景)</p> <p>私はボート部員として瀬田川を利用して、毎日瀬田川に寄り添っていることを何かに生かせないかと考えていた。そこで瀬田川関係者がお互いの活動を理解し、思いやることでそれぞれの利用者としての自覚を高めるとともに、お互いに快く瀬田川に集い、瀬田川の環境を守りながらそれぞれが自分達の活動を行えるような環境が創れるのではないかと感じた。</p> <p>(昨年度の課題)</p> <p>昨年度はレンジャーとしての活動を開始し、ミッションにおける第1段階の活動を中心に活動を展開できた。しかし関係者との交流を通して新たな課題が見つかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アダプト制度の適用についての検討が不十分であった。 ・ヒアリングについて、各団体との交流に留まり、具体的な活動や思いについて聴取しきれなかった。 	
<p>実施目的</p>	<p>(ビジョン・展望)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・瀬田川利用者が相互理解の中で夢中なものに向き合える瀬田川になること。 ・瀬田川利用者がどういった活動をしているのか互いに知ることによって交流を育み、互いに思いやって快く利用し合える関係が出来ること。 ・瀬田川関係者が理想の瀬田川について考え、利用者間、利用者行政間で適切な連携をとってその実現に向かうことが出来ること。 <p>(ミッション・使命)</p> <p>第1段階</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他種利用者を繋げるために、まずは私自身がヒアリング等を通してどのような利用者がいるか、それらの利用者がどのような活動をしているのかを把握する。 ・レンジャーである私が利用者とのラポール(心の架け橋)構築を行い、利用者の瀬田川への思いや瀬田川での日常をより深くまで聞き取れるようになる。 <p>第2段階</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私が架け橋となって、瀬田川で夢中なものに向き合っている人同士を繋ぐような場を作る。 ・瀬田川で何かに夢中になっている人同士がお互い何に夢中になっているのかということを知り合うためのツール、しくみを作る。 	

	<p>第3段階</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者がそれぞれの理想とする瀬田川について意見交換を行い、そのために何が出来るのかを考える場を作る。 ・利用者が主体的に協力して瀬田川をより良くするような活動を行うことを支援し、行政と適切な連携をとれるよう間に入る。
今年度の成果目標とこれまでの達成度	<p>※活動計画で掲げた成果目標に対してこれまでの達成度をA～F（Aが達成度最大、Fが達成度最低）の6段階で自己評価して下さい。また、そのように評価した理由や根拠があれば書いてください。</p>
1. 利用者の利用状況の把握と集計	<p>A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>※理由・根拠を記載してください。</p> <p>目標としていた5団体には届かなかったものの、漁船やヨットに実際に乗せてもらいながらヒアリングを行うことができたため、それぞれの利用者の視点に近いものであった。</p>
2. 利用者との顔の見える関係作り	<p>A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>※理由・根拠を記載してください。</p> <p>イベントへの参加は昨年度と比較して減っているが、ネット媒体の活用に関して大きな進歩と今後への期待がみられたため。</p>
3. 活動の継続性・連続性の方策の検討	<p>A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>※理由・根拠を記載してください。</p> <p>部内引継ぎに関して、支援室と協議出来た。部内で後輩に声をかけ、興味を持ってもらえたが、レンジャートライアル制度の活用には至らなかったから。</p>
	<p>※当初想定していなかった成果があれば記載してください⇒</p>
	<p>※これまでの活動の中で、自ら評価できる点などを記載して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動に際して、レンジャー活動に集中して取り組める環境下では高いバイタリティと想いを持って活動出来た。

	年間活動計画	活動結果
活動内容の計画と途中経過	<p>※活動計画で掲げた活動内容に対して、これまでに実際に実施できた事柄、計画していたが実施できなかった事柄、さらに、当初予定していなかったが実施できたことなどを、前述の成果目標の番号と対比して記載してください。</p>	
	<p>① 瀬田川関係者（瀬田川漁協、石山寺観光協会、琵琶湖漕艇場、ボート部、カヌー部、釣り人）についてどのような活動を行っているのかの概要を把握する（最低5団体）。そのヒアリング内容を情報として整理、集計する。</p>	<p>瀬田川関係者へのヒアリングとしては、漁協、釣り人、コハク鳥の会の方、河川事務所に対して行うことが出来た。目標の5団体には達していない。</p>
	<p>② 琵琶湖河川レンジャーとして自分の存在を認知してもらい、連携出来る関係を作る。それをもとに今年度はミッションの第2段階にあるように、イベントなどの機会に活動ジャンルの違う団体同士を紹介することで繋がりを仲介したい。</p>	<p>「顔の見える」から少し離れてしまうけれど、LINE@アカウントにより、大きな連携の輪となる基礎を築き始めた。活動ジャンルの異なる団体をイベントで繋げることについては、そういったきっかけを掴めずにいた。</p>
	<p>③ 活動を部内や関係者で引き継いでいけるよう、人材発掘やレンジャートライアル制度を利用した育成、これまでの活動情報・ネットワークの情報まとめ。</p>	<p>自分のこれまでの活動が人に引き継げるところまで行っていないと考えている。 部内の後輩には今後まずはレンジャートライアル制度を適用して、その後の引継ぎに繋げたい。</p>
	<p>※当初予定していなかったが実施できたことがあれば記載してください⇒</p>	
活動対象に対する関係づくりの途中経過	<p>※活動計画の中で、「活動の対象」として挙げた相手について、これまでにどのような関係づくりできたのかを記載してください。また、当初想定していなかった相手との関係づくりが出来た場合には、そのことも記載してください。</p>	
	<p>① 瀬田川利用者及び管理関係者</p>	<p>釣り人：昨年度に引き続き交流を行えた。 瀬田漕艇クラブ：新たに活動のアピールを行うことが出来た。 瀬田町漁協：新たに交流が始まり、とても協力的な関係作りを行えた。 自治会：蛍谷の自治会長さんとは毎日のように挨拶をしており、日々身近な交流が行えている。 河川事務所職員：これまで知り合った方とは少しフランクな話も出来るようになり、意見交換会などで新たに知り合った方とは今後交流をしていきたい。</p>

		滋賀県職員：水辺の清掃の際にご挨拶をしたところ、私の活動にとっても興味を持ってくださった。
今年度における今後の課題	<p>※ これからの活動の中で取組んでいきたい事柄、活動の中で悩んでいる点などについて記載してください。</p> <p>LINE@アカウントの実働整備 レンジャートライアル制度の活用</p>	

		年間活動計画											
工程計画		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
① 利用者の 利用状況 の把握と 集計			利用者へのヒアリング					聴取内容の整理と集計					
	②利用者との 顔の見える関 係作り		適宜イベント参加			アダプト制度の検討			ネットや冊子を用いての情報共有				
		③ 活動の継 続性・連 続性の方 策の検討		部内での人材発掘		レンジアトリアル制度の活用				引継ぎ項目の検討 情報整理			

※年間活動計画における工程計画（上段）に対して、これまでの活動実績及び今後の活動予定を記載してください。

		活動結果											
工程計画		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者の利用 状況の把握と 集計				関係団体へのヒアリング									
	利用者との顔 の見える関係 作り			LINE@構想		運営規約作成		試験運用とフィードバック		運用開始と広報活動			
		活動の継続 性・連続性の 方策の検討			現時点での活動振り返り				レンジアトリアル制度の活用				

活動工程に関するふり返り

※当初の工程計画及びこれまでの活動結果をふり返り、出来なかったことに関して、今後どのように活動していくかなどについて記載して下さい。

今後の活動について、10・11月に活動を休止するかどうかというお話もあります。

10・11月分の具体的な活動計画を別途添付いたしますのでそちらをご参照ください。

私自身は活動を継続したい意思はありますが、休止する場合は今後年度内での活動スケジュールを重ねて再考したいと思います。